

v o y a g e

～ 水の都へ～



新空港に伴う周辺地域の開発



現在，北九州市では，ルネッサンス構想による数々の建物や施設が着々と完成しつつある。その中でも 2005 年開港予定の海上空港は，アジア，とりわけ東アジアに非常に近く，九州と本州の交流・物流の結節点という大変恵まれた場所に位置している。今後アジア・太平洋地域における国際航空需要は飛躍的な伸びが見込まれ，現在衰退している北九州市の起爆剤として多いに期待されている。我々はこの新北九州空

港に着目し，ここに海上空港である事を生かした親水都市をつくり，周辺にアジア街を配置した魅力ある新しい「市の顔」をつくることを提案する。

ここで考える親水都市とは，地理的な特徴による水辺としての環境開発だけでなく，北九州市の「人・物・情報の拠点性を回復する」ということも目的としている。

この親水都市を計画するにあたり，我々は以下の 3 つの柱を立てた。

1，物流往来

2，アジア

3，自然

以上の点を踏まえながら計画していきたい。

1，物流往来

現在北九州市には，貨物取扱い量が全国 7 位であるコンテナ基地があり，新北九州空港の完成により，海路，陸路ともに物流が大変盛んになることが予想される。そこで将来的には 24 時間発着可能なこの空港のポテンシャルを限界まで引き出すために，家畜等の輸入を見据えた人工島や，コンテナ貨物をより円滑に輸送するための大規模なコンテナターミナルを計画した。

物流が盛んになると同じく盛んになるのが人の往来である。そこで，それらに携わる人たちを含め周辺の人々のための住宅街，また親水都市の利点を生かしたレジャー施設を設置したい。都市の中で手軽にリゾート気分になることの出来る時間と，ホテル，レストラン，ジム，マリーナ等の施設を計画し，周辺の景観の中に溶け込むような空間を考えた。そこに住む人，周辺地区で暮らす人，空港を利用して仕事や遊びに来る人，様々な人が利用しやすいように工夫をこらした。



また、都市機能の空間と貨物等の輸送機能の空間とをはっきりと区別し、二つの機能が合理的に行えるように計画することが重要だと考えた。例えばターミナルは空港から一番近い海岸に配置しその付近にオフィス街を配置する事や、住宅街と観光路との間に大きな森のような公園を設け、住人にも観光客にも安らげる場所にする等である。



2, アジア

新空港が東アジアのゲートウェイとして期待されることに着目し、空港周辺の人工島に各国のブースを設け、気軽にその国の文化に触れられるようにする。そこには、商店、飲食店、博物館等を配置し、異国情緒あふれる空間を造りたいと考えている。

さらにその国の文化を知るだけでなく、アジアの中の日本として自国の文化もまた改めて確認出来るようにしたい。その具体的案としては、日本の文化を紹介するコーナーを設置し、お年よりに昔の遊び等を紹介してもらうなどである。

3, 自然

この項目が他の都市との大きな違いである。現在ある多くの市の海辺は工場等が建設されており、海辺の景観や雰囲気が生かされている様には感じがたい。たとえば、周辺の都市(小倉)は海に近い場所にはあるが海辺と都市の間にはコンテナターミナルがあり、上手に水環境を包含している都市とは言えない。

今回計画地に選んだ場所は海辺で、しかも広大な面積の曽根干潟も近隣にある。ここはミサゴなど野鳥の絶好の観察地であり、大変貴重な自然の財産である。そこで魅力あふれる空間を創造するためのキャンパスとして、プロムナードや野外ステージ、広場等を計画した。自然と接することで、人々が何かを考え、学ぶ場所が必要だと考えたからである。

以上の事を考えて計画をした。ルネッサンス構想で市はみるみる姿を変えていく。それに伴って市民の生活も多様になるだろう。今回の計画で、人々が繰り広げる多様な社会活動の受け皿になれば良いと思う。

